

TRAFFIC ADVICE

[四国電力(株) 安全運転指導員・若年者等合同研修]

★交通教育センターから



見通しの悪い交差点では、左右の安全確認をしっかりと行う

縦列駐車の方法を運転指導員が若年者等に伝える

午後2時、両者合流して「混合交通」の実践指導。若年者等が運転し、運転指導員が同乗する。縦列駐車や車庫入れの際には、運転指導員がクルマから降りてハンドルを切るタイミングなどを若年者等にアドバイスした。

6月3日から6日までの4日間、鈴鹿サーキット交通教育センターにて、四国電力(株)の安全運転指導員・若年者等合同研修が行われた。同社では、「車両安全運転指導員」(以下「運転指導員」)を選任し、運転指導員が各職場で日頃の安全運転や交通災害防止に関する指導・助言を担当している。今回行われた研修には、各職場から運転指導員8名と、若手社員を中心とした若年者等9名が参加した。

この研修は、①運転指導員は指導法研修、若年者等は運転実技を中心とした研修、②運転指導員が若年者等を指導する実践指導研修③運転指導員と若年者等の合同運転研修で構成されているのが特徴だ。

午前11時、両者合流して「同乗チェック」の実践指導。コースは一般道路を想定し、交差点、坂道、駐車車両などが設定されている。1回目、運転指導員が同乗して若年者等の運転をチェックする。車内では、「ミラーだけでなく目視で確認しよう」「予告ブレーキをすると追突防止になるよ」と運転指導員がアドバイスを行った。2回目は、1回目の不十分な点を意識してもう一度走行。3回目、今度は運転指導員の走行。「後方よし」「巻き込みよし」と声に出しながら安全確認を行い、若年者等に模範を示した。「同乗チェック」後、インストラクターから見通しの悪い交差点での出会い頭事故防止について説明。「まず停止線で停止して安全確認。次に、少しずつ前に出て、周囲に自分の存在を知らせる。さらに見やすい場所まで出てから停止。もう一度安全確認を行いましょう」とアドバイスした。



同乗チェック後は、運転指導員から若年者等に注意すべき点をアドバイスする



若年者等は、動画による危険予測トレーニングを行った

午後3時半からは、合同で「加減速とコーナリング」の研修。30km/h、40km/h、50km/hで、カーブを走行する。スピードが上がるにつれて操作や情報確認が難しくなることを実際に運転して体験し、安全にカーブを曲がるにはカーブ手前の減速が重要なことを確認した。

TOPICS 1

●本田技研工業(株) 安全運転普及本部とASIMO 交通安全イベントへの協力で 埼玉県警察本部より感謝状



7月4日、Honda ウェルカムプラザ青山にて、中村孝司・埼玉県警察本部交通部より本田技研工業(株) 安全運転普及本部と二足歩行ロボット「ASIMO」に感謝状が送られた。

安全運転普及本部は、埼玉県警察本部が春の全国交通安全運動に先駆け、4月5日にJR大宮駅西口イベントスペースで行った「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008 心から心への交通安全～」に協力。このイベントへの協力により、埼玉県民の交通安全意識の高揚や交通事故防止活動を積極的に推進した事が評価された。



スピードが速いと、カーブを曲がる際の操作が難しくなることを体験した

SAFETY REPO

●Honda Cars 熊本・安全運転セミナー 事故防止に役立つ知識を提供し、お客様の安全意識を高める

6月15日、ホンダカーズ熊本の4店舗の代表者で構成する「安全運転推進本部」による「安全運転セミナー」(以下、セミナー)が開催された。安全運転推進本部は、クルマを販売する企業として熊本県内の交通安全や違反の削減に貢献することを目的に設置されたもの。

セミナー会場となった同社出水店の会議室には45名のお客様が集まった。講師は、交通安全教育センターレイノー熊本の渡辺基明インストラクター。まず、全国と熊本県の交通事故件数・死者数・負傷者数の推移を説明。次に、交通事故の3要素は「人」「車」「環境」であること、運転の仕組みが「認知→判断→操作」で構成されていること、そして人的エラーは認知ミスが多いことを伝えた。

この認知ミスを防ぐために、「運転中に1カ所を注視せずに、たえず目を動かすことが重要」「右折待ちの時は、一瞬だけ見た対向車との距離で行けるかどうかを判断するのではなく、相手がどのくらいの速度で近づいているかを考えて判断することが重要」など、渡辺さんがアドバイスを。

最後に、(株) 損保ジャパンの担当者が万一、交通事故を起こしてしまった時の対応を説明し、1時間半にわたるセミナーは終了した。運転免許を取得して約1年という参加者は「運転経験の少なさを、知識を得ることで補おうと思いましたが、知識を得ることで補おうと思いが役立ちました。これから運転していく上で役に立ちます」と感想を話してくれた。

TOPICS 2

●ホンダ輸送グループ安全協議会 交通安全標語・ポスター表彰式 家族で交通安全を考える 標語・ポスターの表彰式



7月22日、ホンダ輸送グループ安全協議会「交通安全標語・ポスター表彰式」が鈴鹿サーキットホテルけやきホール(三重県鈴鹿市)で開催された。同協議会は本田技研工業(株)の製品輸送業務に携わる日本梱包運輸倉庫(株)、ホンダ運送(株)、(株)ホンダロジスティクスで構成され、3社とその協力会社が一体となって、交通事故ゼロをめざすことを目標に、安全運転の啓蒙と意識高揚のための教育・指導・広報活動を行っている。

同協議会では、毎年交通安全啓蒙活動の一環として交通安全標語・ポスターを各社の社員とその家族から募集し、表彰を行っている。今年、標語の部には、5140名より6713点の応募があり、最優秀賞各社1名、優秀賞各社3名が表彰された。また、ポスターの部には、263名より355点の応募があり、最優秀賞各社1名、優秀賞各社1名、子ども賞(幼児・小学校低学年・高学年の3部門)各社3名が表彰された。

- 最優秀賞に選ばれた標語は以下の通り。
- 「ゆっくりスタート やさしくストップ エコドラ実践 事故防止」日本梱包運輸倉庫(株)・久保俊一さん
 - 「仲間に話そうヒヤリ体験 聞いて活かそう 自分の行動」ホンダ運送(株)・坂口俊也さん
 - 「心のゆとりと車間距離 大きくひろげて 守れる未来」(株)ホンダロジスティクス・内山加央里さん
- また、ポスターの部では、日本梱包運輸倉庫(株)・久保明之さん、ホンダ運送(株)・畠田佳代子さん、(株)ホンダロジスティクス・森由美子さんが最優秀賞に輝いた。